

豊田講堂完成・第1回名大祭記念絵葉書

名大の周年事業である「プロジェクトNU MIRAI」は、創立80周年（2019年）、創基150周年（2021年）のほか、豊田講堂と名大祭の60周年（2020年）を記念するものでもあります。豊田講堂の竣工は1960（昭和35）年5月9日、第1回名大祭は同年6月3～6日と、ほぼ同時期のことでした。

今回は、この二つを記念した絵葉書を紹介します。発行は名古屋大学学生協同組合（名大協組）です。発行年月は不明ですが、絵葉書の写真には1960年5月とあります。4枚の絵葉書が専用の封筒に入っています（写真1）。

絵葉書の図柄はいずれも写真で、モノクロ写真に着色が施されています。この時代、カラー写真はまだ一般的なものとは言えませんでした。1952年に全学統一組織になった名大協組も、カラー写真にする余裕はなかったのでしょうか。名大協組が法人格を取得し、現在の名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）と改称されたのは翌

61年のことです。

4枚の絵葉書は、豊田講堂の外観と内観が1枚ずつ、東山キャンパスの景観が2枚です（写真2～5）。名大祭を記念しているには、その写真はありません。

1960年当時の名大のキャンパスは、前年に法学部と経済学部が東山に移転するなど、学部の東山への集結が進みつつありました。ただ一方で、大学本部と文学部・教育学部は名城キャンパス、農学部は安城キャンパス、教養部は瑞穂キャンパスと、まだ「タコの足大学」の状態から脱却できていませんでした。

豊田講堂は、学部が集結した東山キャンパスのシンボルとなることが期待されていました。東山キャンパスを主会場に始まった名大祭も、名大生の学部を超えた統一を図るという目的がありました。この絵葉書の写真の構成は、そういった当時の名大の状況を示しているとも言えるでしょう。



- 1 絵葉書の封筒。右下に「名大CO-OP刊行」とある。
- 2 豊田講堂の外観。周囲が単一の模様に塗られているが、まだ舗装・整備されていなかったためと思われる（写真4参照）。
- 3 豊田講堂内観。
- 4 東山キャンパス理系エリアの景観。正面右が理学部本館（現理学部A館）。左に見えるのが工学部1号館（現在はIB電子情報館が所在）。
- 5 1959年に完成した法学部棟と経済学部棟。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

With コロナでのキャンパスライフ応援事業（基金）ご支援のお願い

名古屋大学では「新たな生活様式」を取り入れ、安心・安全に充実した学生生活を送れるよう、「With コロナでのキャンパスライフ応援プラン」を実施します。学修環境や課外活動への対策に加え、一人ひとりの悩みに寄り添う学生支援などを進めてまいります。コロナ禍においても挑戦する姿勢を育み続けるため、皆様のご支援をよろしくようお願い申し上げます。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

